

皆さん、こんにちは！私は今年も嘱託医を務める芦田と申します。皆様のお子さんの健やかな成長の手助けができるよう、園のスタッフの方々と協力し合いながら1年間頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

さて、最近百日咳の流行が話題になっています。そして、残念ながら東京で生後1か月の赤ちゃんがこの病気で命を落としてしまいました。今流行っている百日咳は今まで一般的に使われていた抗菌剤の効きが悪いタイプです。そのため普段あまり使われていない抗菌剤を使うのですが、この薬は生後2か月未満の赤ちゃんには使うことができません。それがために、こんな悲しい出来事が起こってしまいました。実は、この亡くなった赤ちゃんにはきょうだいがいて、そのきょうだいが先に百日咳にかかってしまいました。推測するに、それが赤ちゃんにうつったものと思われます。ここで大事なことは、このきょうだいが予防接種を受けていなかったことです。どういう理由かはわかりません。ただ単に忘れていたのか、それとも保護者が反ワクチンの立場を取っていたのか、普通に考えるとこのどちらかです。ただ、もしこのきょうだいが予防接種を受けていたなら百日咳にかからなかった可能性が極めて高いですし、そうすると亡くなった赤ちゃんも百日咳にかからずに済んだと思われます。残念な事です。

また、麻しんの感染拡大も報じられています。NHKのデータを見ると、4月15日までに8人の患者が県内で発生しています。昨年の同時期は1人だけだったことから見ても、今年は怖い状況になっています。患者の多くは20歳以上の大人ですが、一部子どもの発生が報告されています。そのお子さんのほぼすべてが予防接種を受けていません。逆に未就学児で麻しんにかかった子どもで予防接種を受けていた子はいません。これだけ予防接種は効果があるのです。麻しんには特效薬はありません。脳炎や肺炎を起こして命を落とすこともあります。その率は0.1～0.2%、つまり麻しんにかかると1000人に1人か2人は死んでしまいます。ではインフルエンザにおける子どもの死亡率はどれくらいでしょう。これはいろいろなデータがありますが、私が調べたところ0歳～9歳の子どもの場合0.002%でした。つまり麻しんはインフルエンザの50倍から100倍の死亡率であることがわかります。こんな怖い病気ですが、前にも書いた通り予防接種を受けておくとほぼ100%防げますし、万が一かかったとしてもとても軽くて済むことがわかっています。

予防接種については、どうしてもネガティブな情報がネット上で飛び交いがちです。それは予防接種の効果が目に見えにくいからです。百日咳も麻しんも、インフルエンザみたいな大流行とはなりません。だから、予防接種を受けていない人でもその病気にかからずにスルー出来てしまいます。でも、それはあくまでラッキーなだけです。実際、百日咳についてはうちの診療所だけで4月14日から27日の2週間で4人の患者が発生しています。一介の小児科開業医であるうちでこれだけの数が出ているとなると、おそらく社会全体で相当流行していると思われます。麻しんについても、大阪では感染経路の追えない患者が出始めています。これは恐ろしいことです。

皆さん、今一度お子さんの母子手帳をご確認ください。百日咳は2歳になるまでに4種混合若しくは5種混合ワクチンを4回接種していれば良いでしょう。ただし最近年長さんで5回目の接種を進める動きも出ているので、その点についてはかかりつけの先生に相談してみてください。麻しんは1歳で1回目、そして年長さんで2回目のMRワクチンを受けておく必要があります。

予防接種に副反応を起こす可能性があることは十分承知しています。しかし、それを受けないことの方が断然怖いということを今回は強調しておきたいと思い、この文章を書きました。